

## 名誉会員 藤村 一 先生の御逝去を悼む



和漢医薬学会名誉会員、藤村 一先生は平成14年10月1日にご逝去され、同3日に京都市において御葬儀が営まれました。誠に痛惜の念にたえず、ここに謹んで哀悼の意を表します。

藤村先生は、大正10年にお生まれの享年81歳、長寿社会の今日ではまだまだお元気で御活躍をお願いできると思っておりましたのに残念でなりません。

先生は、昭和16年に京都薬学専門学校（現 京都薬科大学）ついで昭和20年に熊本大学医学部医学科を御卒業後、京都大学化学研究所の助手、助教授を経て、昭和39年に岐阜大学医学部教授に就任され、医学教育と研究に専念されました。昭和57年に御退官後、京都薬科大学学長として薬学教育、研究と大学運営に多大の功績を挙げられました。この間、学生及び後進の指導育成に努められ、多数の優れた人材を医学及び薬学界に送り出されるとともに、日本薬理学会、日本臨床薬理学会、日本炎症学会、日本毒科学会等において会長を務められるなど、日本の学術学会の要職を歴任され、それらの発展に大きく寄与されておられます。

先生は、薬理学のみならず医薬品化学など薬物療法の分野においても素晴らしい業績を残されております。これまでに鎮痛薬、抗炎症薬、肝疾患用薬、消化管潰瘍治療薬、緩下薬などの広汎な領域で優れた医薬品を数多く創製しておられます。特に、非麻薬性鎮痛薬の開発では、受容体相互作用に基づく薬物設計、受容体機能の解明や受容体蛋白質の分離精製など、神経薬理領域での分子生物学的研究の先駆者として高い評価を受けておられます。また、炎症と抗炎症薬の研究では、現在の本領域の基準となっている優れた研究成果をあげられるなど、炎症研究の第一人者としての業績を残されております。そして、鎮痛薬の御研究に対して昭和40年岐阜日日賞学術賞、抗炎症薬研究に対しては昭和57年宮田専治学術振興会学術賞を受賞されるとともに、平成7年には勲三等旭日中綬章を受章されております。

和漢医薬学会におきましては、和漢薬シンポジウムの頃から学会設立にむけて御尽力され、昭和59年から平成3年まで、理事、監事を歴任されておられます。また、昭和60年の第2回和漢医薬学会大会を、大会長として成功裡に開催されておられます。また、平成3年に設立されました京都漢方研究会では初代会長として、以来終始一貫して漢方医薬学の発展に心血をそそがれてきました。平成8年には第29回日本漢方交流会京都大会の大会会長として、平成12年の第51回日本東洋医学会京都大会でも中心的な活躍をされておられます。このように、長年にわたり和漢医薬学領域の発展に寄与されており、これらの功績により和漢医薬学会の名誉会員に推薦されておられます。

ここに、藤村 一先生の生前の御功績を称え、和漢医薬学会への御尽力に厚く感謝し、心より御冥福をお祈り申し上げます。

和漢医薬学会  
理事 吉川 雅之  
(京都薬科大学教授)